

番号	会議・委員会・部門委員会名	担当課・係	開催回数	前年度の自己点検 及び改善すべき事項		前年度の評価概要 及び改善事項	今年度の活動内容	自己点検及び改善すべき事項	評価概要	評価	改善事項
				自己点検	改善すべき事項						
1	主管会議	総務課 総務係	28	適切に審議され、実施できた。	資料として準備された審議事項以外の多様な事項についても情報交換する雰囲気と時間的余裕があるのが望ましい。	学校運営に関わる主要な事項については、運営会議にて報告予定の事項からピックアップして報告する機会を設ける。 ・審議の後にフリーターキングの時間帯を設ける	次の事項を審議した。 ・本校規程等の制定及び改正 ・教員配置要望・募集計画 ・予算編成方針 ・入学、進級、卒業、学生の身分に関する事項 ・非常勤講師の雇用に関する基本方針、雇用計画 ・教職員、学生に対する懲戒処分 ・個人情報漏えい等に対する危機管理体制	適切に審議され、実施できた。 ・平成22年度から報告事項を極力省略したことから、構成員間で情報の共有が図れない面があった。 ・審議の過密から、会議後のフリーターキングの時間帯を設けることが出来なかった。	学校運営に関わる最高審議組織としての機能は充分果たしており、その点は良好である。しかし、情報の共有が図れない面があった点、及び情報交換のためのフリーターキングが実施できなかった点は、直ちに学校運営に支障を来す訳ではないが、若干の懸念がある。	C	会議を効率よく進めるため、資料等は可能であれば事前に配布することにより、早期に情報を共有し、会議開始と同時に共通認識を図るなどの具体的な対応が望まれる。 また、フリーターキングについては、昼食時等、別の時間帯を設定することも検討する必要がある。
2	運営会議	総務課 総務係	21	適切に審議され、実施できた。	良好である。		主管会議で審議された事項のほか、本校の運営事項等を協議した。	適切に審議され、実施できた。	学寮における教員の宿日直業務に関する審議事項は2月16日の議事要旨によれば、資料を持ち帰り再協議となっている。その会議で提示された資料が明示されていないので判断が困難であるが、その後の資料等を含めて、会議前に配布しておくことが望ましい。また、3月4日の議事要旨にこの件の記述がないことは懸念すべきことである。	C	重要な案件については、事前に資料等を配布し、協議の環境を整えることが望ましい。運営会議は本校の見識ある多くの教職員で構成される場であり、活発な協議を期待するものである。また、議事要旨では会議をあとから検証することが困難であり、他の会議と同じように学内ホームページで資料を開示すべきである。
3	スパイラルアップ会議	総務課 総務係	1	適切に審議され、実施できた。	良好である。		平成21年度各会議、委員会等の活動報告の点検評価及び改善を実施した。	適切に審議され、実施できた。	良好である。	A	
4	教務会議	学生課 教務係	34	定期試験における不正行為が前期期末試験で3件、後期期末(5年)で一件、発生した。各対策の検討を学科に依頼し教員間のモチベーションを図ったが、年度末において試験監督中にパソコンを持ち込んでの作業や、採点業務に励む教員があり、教員の意識に格差のあることが露呈した。学生の意識のみならず、教員の意識改革も必要である。 入試対策について、中学校訪問(教員・教員)は主要な対処策のひとつであるが、中学校生徒に直接、説明する機会ではないので、発想の転換が必要な時期であるとも懸念される。中学校主催の進路説明会への教員派遣、あるいは本校在学生の派遣等が一層効果的であるとも考えられる。現在、柔道部や陸上部では顧問主導により中学校の生徒部員との交流が図られている。あるいは、学科等の主催による公開講座においても入学者確保の活動が行われている。これらの交流について教務サイドでも支援のできるような仕組みを構築し、この種の交流の機会を広げたい。 授業は本校の教育システムの中核であるが、授業参観、あるいはその他の機会において、正常な授業運営が実施されていない状況を目にする機会が多かった。授業改善の観点から計画的かつ有機的なFD行事の開催が必要である。		全34回の教務会議を通して、主に教育課程・授業、及び入試関係の事項について検討を行った。 定期試験の不正行為防止対策として、校長、主事、及び教務委員による巡回を実施した。また各学科独自の対策案を年度当初に設定頂き、各学科の自主性を尊重する運営を実施した。 入試の志願者倍率増加の方策として、中学校訪問、学校説明会、オープンキャンパス等を実施した。アピールポイントとして就職のみではなく、大学3年への編入学の状況も良好であることを強調した。各中学校には生徒数分のチラシを配布した。	教務会議を極力、毎週実施し、各会議の時間を短くし集中した検討ができるように努めた。会議の頻度が高いため委員のモチベーションを維持することができた。 定期試験に際して本科学士の不正行為は発覚しなかったが、専攻科学生の不正行為が1件生じた。 学生の確保について、オープンキャンパスの参加は低迷しているが、学校説明会の参加は比較的多かった。生徒さんに直接アクションする、という意味では各中学校に生徒数分のチラシを配布したことはよかった。 授業中にゲーム機をいじるなど受講態度の不良な学生が多くなってきているが、組織的な対応には至っていない。	良好である。	A	適切に審議され実施された。	
5	専攻科会議	学生課 教務係	13	1. 良好である。 2. 良好である。 3. 改善を要する点 ・学位授与機構試験でのS系4名の不合格。 特別研究指導教員・主査・副査の連携と相互確認を改めて全教員に願う。 ・2年次修了がS・K各系2名ずつ留年となったこと。 TOEIC基準の早期達成、特別研究会発表の早期達成等を推進するよう、指導教員・主査・副査・学科専攻科委員等を通して啓蒙する。 ・上記の原因である、TOEIC基準の早期達成 英語科教員との連携を密にする。 ・特別研究指導と学会発表の主査以外による確認と指導 一部の学生が、指導教員とのコミュニケーションがうまくとれないことを想定し、副査や学科専攻科委員などにより、ケアと指導・確認を強化する。	1. 良好である 2. 良好である 3. 左記の改善策の実行が望まれる	なし 左記の改善項目を、早急かつ効果的に行うことを期待する	3. 改善を要する点に関して、以下の活動を行った。 ・学位申請における学修レポートの指導において、主査(指導教員)のみでなく、副査による指導も専攻科として正式に依頼して行うことで、広い視点からの指導を行った。 ・留年者に対する対応としては、各科専攻科委員と連携して日常的な指導を行っている指導教員に対して、担任のような学校生活に対する指導も依頼して、総合的な対応を行った。 ・TOEIC基準の早期達成については、英語科担当者が専攻科委員となり、毎月の専攻科会議において、状況の把握を行うことで、情報共有を進め、各科専攻科委員から指導教員への指導依頼を徹底した。 ・特別研究と学会発表に関する主査以外による確認と指導に関しては、主に研究内容は副査が担当し、手続きなどの確認は専攻科委員が補足的な指導を担当した。	対応の結果、学位申請においては、対象となる全ての学生が合格した 対応の結果、学校生活に関しての問題はなく、留年者は0となった。 対応の結果、年度内に対象学生すべてがTOEIC基準を満足した。 対応の結果、特別研究の不合格者や学会発表の未完了はなく、全員が専攻科修了となった。	良好である 修了できなかった学生がいたことも事実であり、継続した対応が必要である 何度末に1名に対してIPテストを行うなど十分であるとは言えないので、継続した対応が望ましい 良好である	A W C A	前年の改善を要する点の多くは、改善されたが、いずれも抱えている問題は大きなものであり、継続的な改善への取り組みが必要である。 すなわち、 1.学位授与機構試験での不合格者を出さない指導体制の確立。研究指導教員・主査・副査の連携と相互確認を改めて全教員に願う。 2.留年生や退学者を出さないきめ細やかな指導体制の確立。 3.TOEIC基準の早期達成への工夫。 4.特別研究指導と学会発表の主査以外による確認と指導体制の確立
6	学生会議	学生課 学生係	40	活動状況は良好である。	活動状況は良好である。		活動状況は良好である。 学生主事の指導目標を「モラル」とし、指導目標を教室内、校舎内に掲示するとともに、機会あることに学生に呼びかけを行った。	学生主事の指導目標「モラル」に関しては、学生会案で、不用傘を再利用し、誰でも利用できる共有傘を6月から学生玄関、体育館など4か所に設置したが、ほとんどが無くなるという結果であり、目標である「モラル」あるが「る生が育つ」とは考えにくい、引き続き指導が必要である。今年度、12年生の交通事故が前期に多発した。今年度後期に実施した2年生の交通安全教育を前期に行うのが望ましい。	指導目標が徹底されることが望まれる。交通事故が増加したことが懸念される。	C	指導目標が徹底されなかった点について、具体的な方策を検討する必要がある。交通事故をなくするため、講習会などによる徹底が求められる。
7	寮務会議	学生課 学生生活支援係	33	活動は計画通りに実施されたが、一部の寮生会行事は参加者に学年による偏りがあったり(例えば、スキー研修に参加した1年生は皆無であった)、担当寮生による準備が直前になることがあった。	活動状況は良好である。		寮生指導案や寮関係行事実施案を審議し、それに基づき委員分担を決め計画通り実施した。	活動は計画通りに実施されたが、一部の寮生会行事は参加者に学年による偏りがあった(例えば、スキー研修に参加した1年生は皆無であった)。寮棟によっては階長が機能してあらず、各寮担当教員と各寮総代は各階階長とのコミュニケーションを密にして支援することが望まれる。	活動状況は良好である。	A	

番号	会議・委員会・部門委員会名	担当課・係	開催回数	前年度の自己点検及び改善すべき事項		前年度の評価概要及び改善事項	今年度の活動内容	自己点検及び改善すべき事項	評価概要	評価	改善事項
				自己点検	改善すべき事項						
8	将来計画委員会	企画室 企画係	0	・本委員会とは別に、校長主導で専門基礎の改組が進められ、平成23年度から実施されることになった。 ・将来計画委員会規程では、検討項目に教員組織に関するものが含まれているが、本委員会の委員構成では議論が難しい面もあり、今年度校長主導で専門基礎の改組が推進されたことは、けだし妥当なことである。 ・学校組織の整備の観点から、規程を改正し将来計画委員会で扱う検討項目を絞る必要がある。	良好である。	適切に審議され、実施された。	中期計画について年度計画のフォローアップがメールベースで実施された。	平成21年度から開始された第2期中期計画の途中年度のため、中期計画についての会議による検討は実施されなかった。平成21年度は会議は4回実施されたが、今年度は結果的に1度も開催されなかった。 ・学科改組については機械工学科において名称変更などの取り組みが実施されたが、全学科に亘る課題ではないため、将来計画委員会の議題にはならなかった。 ・教員組織に関わる専門基礎グループの規定は、主管会議、運営会議にて検討されたので、将来計画委員会の議題にはならなかった。 ・学校組織の現状に問題があるとの意見もあるので、来年度以降の検討課題として検討することが期待される。	開催されなかったのは問題である。	W	少なくとも数回は開催して情報交換を行うべきである。 ・学校組織の現状に問題があるならば、ぜひ今年度の検討課題としてほしい。 (例えば)第2外国語の現状に問題があると考えます。このままドイツ語でよいのか。 等々、忌憚のない意見のやり取りを期待します。 ワーキンググループの活用を検討すること。 議事要旨の公開の検討をすること。
9	財務・施設委員会	総務課 総務係・資産管理係	8	適切に審議され、実施された。	・議事内容の性格上、やむを得ない面もあるが、経理・会計関係の部署の委員とそれ以外の委員について議事内容の理解度に差異があり、この解消が必要である。 ・委員を継続していない委員にとってはテクノセンター関係の実施計画・経緯が理解にくい状況にあった。	理解を助けるために事前資料配布から会議開催までに時間の余裕を設ける。 ・今後の新たな施設・設備改修については、委員でない教職員にもわかりやすい情報を適宜、提供するの望ましい。	次の事項を審議 ・平成22年度予算配分(案) ・平成22年度特別教育研究経費要求事業 ・平成23年度施設整備費等概算要求事業 ・平成23年度高専教育充実設備費 ・平成23年度営繕要求(案) ・平成23年度予算編成方針(案) ・平成23年度施設維持管理費所要額 ・不動産使用許可、冷暖房機器の使用許可 ・構内の樹木等の管理 ・福利施設(伊吹)売店の拡充 ・寄宿舎エアコン整備要求	適切に審議され、実施された。	良好である。	A	前年度同様に適切な対応が望まれる。
10	環境保全委員会	総務課 契約係・資産管理係	1	次の事項以外については、適切に審議され、実施された。 「教室等の環境に係る学校環境衛生基準」による検査項目及び「日常における環境衛生に係る学校環境衛生基準」による一部の検査項目が実施できなかった。平成22年度からは、教職員及び外部委託により測定を依頼し、測定結果の査読・対処は、学校薬剤師の判断を得ることとした。	良好である。		次の事項を審議 ・平成22年度環境目的・目標の実施報告 ・平成23年度環境目的・目標の実施計画(案) ・学校環境衛生基準による平成22年度実施報告	適切に審議され、実施された。 水道水のさびによる変色の一部の建物に見受けられることから、平成23年度は建物ごとに水質検査を実施することとした。	良好である	A	
11	入試運営委員会	学生課 入試係	4	適切に審議され、実施された。	良好である。	適切に審議され、実施された。	平成23年度編入学者選抜検査募集人員を決定した。 平成23年度編入学者選抜検査発表合格者数を決定した。 平成23年度入学者選抜検査一次合格発表者数を決定した。 平成23年度入学者選抜検査の業務分担を決定した。 平成24年度編入学者選抜検査実施要項を決定した。	適切に審議され、実施された。	良好である。	A	適切に審議され、実施された。
12	広報委員会	総務課 総務係	2	委員会を開催し、広報の基本方針、広報業務は部局分散型活動とすることを確認する必要がある。	特に学外の一般市民への広報活動などの基本方針を示す必要がある。	広報の基本方針、広報業務は部局分散型活動とし且つ学内からの情報を漏れることなく発信できるシステムを構築する必要がある。	広報業務は部局分散型活動とした。また、学内からの情報を漏れることなく発信できるよう総務課総務係へ情報を集約するようにした。また、入手可能な映像資料についても総務課総務係で保存することとした。 経費面では、「広報」の印刷を取りやめ学内用のホームページに掲載、「リーフレット」を廃止し、経費削減に努めた。	今年度、地域技術開発・教育センターが開所したことに伴い、センターの利用状況の報告や活動をPRするための広報(あるいは報告書)が必要であると思われるので、検討を要する。 その都度定めてきた本校広報の情報発信、収集に関する取り扱いについての申し合わせをまとめる必要がある。	良好である。	A	地域技術開発・教育センターの広報活動に検討を有する。広報の情報発信、収集に関する取り扱いについて、申し合わせのまとめが求められる。
13	ホームページ部門委員会	総務課 情報管理係	1	トップページを広報中心とした。更新は、適切に行われた。 古いコンテンツの整理が必要(継続)	活動内容は概ね良好であるが、継続的な課題となっている、古いコンテンツの整理が望まれる。	古いコンテンツの整理を行う。	・ホームページ部門管理の情報更新 ・各部署(学科・個人等)管理ページの更新 ・英語ページ更新 トップページからたどれないファイルの調査 ・その結果 /www/home/hp2004a、/www/home/hp2004h、/www/home/hp2005a等を削除	・トップページを広報中心とし、INFO欄・NEWS欄を多めにした。 ・更新は適切に行われた。 ・継続的なコンテンツの整理が必要である。	良好である。	A	・継続的なコンテンツの整理が必要である。
14	広報誌部門委員会	総務課 総務係	2	適切に審議され、実施された。	良好である。		活動状況は良好である。	今年度、地域技術開発・教育センターが開所したことに伴い、センターの利用状況の報告や活動をPRするための広報(あるいは報告書)が必要であると思われるので、検討を要する。	良好である。	A	地域技術開発・教育センターの広報活動に検討を有する。広報の情報発信、収集に関する取り扱いについて、申し合わせのまとめが求められる。

番号	会議・委員会・部門委員会名	担当課・係	開催回数	前年度の自己点検及び改善すべき事項		前年度の評価概要及び改善事項	今年度の活動内容	自己点検及び改善すべき事項	評価概要	評価	改善事項
				自己点検	改善すべき事項						
15	人事委員会	総務課職員係	12	適切に審議され、実施された。	良好である。		次のとおり ・教員の選考を実施 ・非常勤講師の選考を実施 ・高専・同技科大交流の専攻を実施	適切に審議され、実施された。	良好である。	A	
16	安全衛生委員会	総務課職員係	12	適切に審議され、実施された。 ・労働災害が1件発生(構内の樹木を機器により剪定中、誤って左膝部分に軽症の負傷)。基本的な操作方法を徹底した。	点検しても整理整頓状況が改善されていない教員室が残っている懸念があり、改善状況が確認されていない。	・教員室の整理整頓については指摘事項改善の確認プロセスを設けたい。	年間安全衛生活動計画により、次の事項を審議した。 ・安全衛生管理体制の確立 ・安全衛生と作業環境の確保 ・健康管理(熱中症対策、メンタルヘルス)、健康増進の実施 ・職場の点検パトロールの実施 ・安全衛生教育の実施 ・教員室の整理整頓については指摘事項があった場合、改善されるまで点検を実施	適切に審議され、実施された。 ・労働災害が1件発生(草刈り作業中における軽症の負傷)。フェースガード等の着用を徹底を図った。	活動状況は良好である。	A	
17	防災対策委員会	総務課総務係	1	適切に審議され、実施された。	活動は良好である。		日程の関係で、防災教育訓練を実施出来なかった。 平成23年度は防災教育訓練を年度当初から計画(行事予定表に掲載)した。 防災備蓄物品(毛布100枚)を東海地区高専共同で被災地に送付。	適切に審議され、実施された。 平成23年度は防災教育訓練を年度当初から計画(行事予定表に掲載)した。 平成23年度は、防災備蓄物品の購入等について検討する必要がある。	活動は良好である。	A	
18	点検評価・フォローアップ委員会	企画室企画係	2	特になし。	良好である		学習評価・フォローアップ点検実施 中期計画ロードマップ点検実施 JABEE基準による自己点検評価・改善	特になし。	良好である。	A	コメント:後継委員が全体のシステムを理解し、マネジメント可能となるよう、本中期計画の後に向けては、継承者の育成が必要。
19	中期計画WG	企画室企画係		特になし。	良好である		親委員会の で実施した。	特になし。	良好である。	A	特になし。
20	自己点検・実施WG	企画室企画係		外部アンケートについては平成23年度に実施することとなっている。	良好である		親委員会の で実施した。結果をJABEEプログラム責任者に示した。	外部アンケートについては平成23年度に実施する。	良好である。	A	特になし。
21	学習評価フォローアップWG	企画室企画係	2	特になし。システムを新しく構築したので、しばらく継続したい。	良好である		親委員会の で実施要領を定め、WGで具体的な作業を実施した。授業アンケートから学生の授業満足度について分析した。また達成度の自己評価についても分析した。	特になし。	良好である。	A	特になし。
22	国際交流委員会	総務課総務係	2	・留学生寄宿事業は希望者がなく、実施されなかった。	活動状況は良好である。		・海外インターンシップ派遣事業の派遣者の承認。 ・留学生関係の支援事業の企画・立案・実施を行った。	海外語学研修支援事業は希望者がなく、実施されなかった。	活動状況は良好である。	A	
23	人権教育委員会	総務課職員係	0	ハラスメント防止ガイドラインを作成する。	ハラスメント防止ガイドラインの早期作成が望まれる。	ハラスメント防止ガイドラインを作成する。	ハラスメント防止ガイドラインについて具体的な内容と公表方法の検討。	ハラスメント防止ガイドラインの公表。	ハラスメント防止ガイドラインの早期公表が望まれる。	W	ハラスメント防止ガイドラインの早期公表が望まれる。
24	情報セキュリティ対策委員会	総務課情報管理係	0	高専機構でセキュリティポリシーが制定された後、本校の実施規程等を策定する必要がある。	活動は良好である。ウェブで確認できる		高専機構情報セキュリティポリシー対策規則・情報格付規則をもとに、本校の情報セキュリティポリシー・ネットワーク利用ガイドライン等を情報セキュリティ管理規程・推進規程・実施手順等に策定することを検討した。	高専機構情報セキュリティポリシー対策規則に従い、本校の情報セキュリティ対策委員会規程を見直す必要がある。	「検討した」とあるが、会議の開催回数が0になっていることが疑問である。	W	自己点検の結果に基づき、改善が望まれる。
25	仕様策定委員会 (その都度設置)	総務課契約係									
26	教務事務電算処理検討委員会	学生課教務係	0	教務事務電算は問題なく運営されており、特に検討すべき項目はない	活動は良好である。ウェブで確認できる		教務事務電算は問題なく運営されており、特に検討すべき項目はない			A	

番号	会議・委員会・部門委員会名	担当課・係	開催回数	前年度の自己点検及び改善すべき事項		前年度の評価概要及び改善事項	今年度の活動内容	自己点検及び改善すべき事項	評価概要	評価	改善事項
				自己点検	改善すべき事項						
27	地域技術開発・教育センター運営委員会	企画室 研究協力係	11	多様な活動を行い、発展の基盤が形成された。 活動内容は、今後さらに膨らむと予想されるので、全体の調整が重要になる。	活動は良好であるが、活動についての学内周知とセンター機能の整理、コーディネータ支援体制の確立が望ましい。		前年度までを継承すると共に、次の活動を新たに立ち上げ、実施した。 ・地域技術開発・教育センターの改修が終わり、開設した。共同研究室2室、ものづくり技術開発室2室、及びものづくりデザインルームについては、公募により使用を許可した。 ・科学研究費申請を全教員に繰り返し呼びかけ、前年度比60%の申請数の増加を得た。 ・OBと連携した人材育成活動を開始した。 ・産学官連携アドバイザー制度の運用を開始し、8名のアドバイザーの活動を予算的にも支援可能とした。 ・地域連携協会の活動を予算的に見直し、共同研究・人材育成・広報活動を3大活動目標とした。 ・アウトリーチ推進室を立ち上げ、本校の入試倍率向上に努力した。 ・東海北陸統括コーディネータ(森永CD)の活動を推進した。 ・学生のもの作りや地域活動を支援した。	・教務・学生・寮務以外の多くの活動が研究主事に集約され、その多くは地域技術開発・教育センター活動として実施されつつある。 ・センター内の組織は確立できたが、本校全体として取り組むべき事業活動への参加姿勢に、個人または学科間で大きな開きが出つつある。 以上を鑑みて改善すべき事項としては、 ・学校として取り組む共通・共同事業に関して、予算申請・確保からの共有意識の更なる醸成。 ・予算獲得した事業への、各科・教職員の参加・協力態勢の拡充。 ・アウトリーチ活動や本校PR活動への、教員のみならず本校職員への周知と協力依頼、および、活動実施体制の構築をあげる。 また、他の活動に関しては、 ・OB連携やフェロー教授活用継続の推進。 ・事業見直しによる簡素化・効率化の推進。 外部へ委託可能な業務の検討開始。 があげられる。	良好である。活発な活動が行われている。 現状で十分に良好であるが、さらに自己点検における改善事項が推進されれば一層良い。	A	
28	技術開発部門委員会	企画室 研究協力係	5	地域連携協会の事業を含め、多様な事業を活発に実施した。	良好である		地域連携協会の事業を含め、多様な事業を活発に実施した。	良好である	良好である。活発な活動が行われている。	A	
29	技術教育部門委員会	技術室 企画室 研究協力係	3	多様な事業の整理を進めることにより、成果が上がっている。	活動は良好である		・岐阜県インターンシップ推進協議会との連携により、多くの学生が企業実習を経験した。 ・若手リーダー育成セミナー(金型・精密加工人材育成)を協働事業として実施した。 ・組込み系デジタルシステム設計技術者育成プログラムを実施した。 ・科学技術リテラシー教育推進室の活動では、岐阜市科学館におけるサイエンステクノロジー展など、科学技術リテラシー教育実習、ものづくりリテラシー教育実習の精力的な活動が行われた。 ・高専祭において地域連携協会のPR活動を行った。	多様な事業の整理を進めることにより、成果が上がっている。	活動は良好である。	A	多様な事業の整理を進めることにより、成果が上がっている。
		技術室 技術教育係	48	活動状況は良好である	活動は良好である		(1)工作機械の老朽化に伴い、旋盤、フライス盤の更新を行った。 (2)夏期において、熱中症対策を実施した。 (3)地域技術開発・教育センター北側の新建屋に対し、建築、設備、電気、利用方法に関し対応を行った。 (4)技術室会議回数は、今年度48回実施。基本的に毎週実施し、技術室の運営に関する連絡調整を行い、3つの班の連携体制を向上させた。	(1)旋盤の中で、製造中止された機械が2台ある。教育効果、研究効果、維持コスト等を考慮した場合、早急に更新が必要である。 (2)工場改修によって、断熱、空気循環設備等の対策が施され、センターエリア内の作業環境は改善された。しかし、空調設備が実習エリアの多くに無く、センターエリア内の空調環境は、改善すべきである。 (3)熱中症対策を行ったが、機械利用者の安全を考慮し、8月、9月期間は利用時間の制限を行った。機械作業者の安全を確保するには、空調設備を含むセンター環境の整備が必要である。	活動は良好であるが、機器類の安全点検、作業環境などで懸念が散見される。	C	機器類の安全点検と作業従事者の環境保全対策について引き続き注視された。また、技術室の連携体制、関係者の議事録閲覧、新建屋の有効活用などについて検討する必要がある。
30	メディア委員会	総務課 情報管理係	12	適切に審議され、実施された。	活動は良好である。	なし	下記31～34について審議を実施した。	活動は良好である。	良好である。	A	コメント:22年度は特に問題ない。50年史等、50周年記念事業関係について、23年度には、その活動を関係者に周知することが必要である。
31	IT戦略企画部門委員会	総務課 情報管理係	10	教育用システム及び学内LANの管理運用は、ほぼ安定的に運用された。種々の障害に対しては、迅速な対応を行った。 教育用システムの更新については、方針を決定した。平成23年度稼働に向けさらなる活動が必要 構内LANについて、コアスイッチを更改した。機構本部のリース契約までの期間、現有機器の安定的運用を維持するため、引き続き維持・管理をする必要がある。 「マイクロソフト包括ライセンス」について、対応を検討した。今後は、ソフトウェアオンライン配布システムを導入し、対応することとした。 ソフトウェア管理体制を整備するとともに、今後は、IT資産管理システムの導入により、適正化を図る。	教育用システム及び学内LANの管理運用は、安定的に運用された。 教育用システムの更新について方針を決定したことを踏まえて平成23年度稼働に向けた活動することが望ましい。 機構本部のリース契約までの期間、現有機器を安定的運用を維持する必要がある。 「マイクロソフト包括ライセンス」について対応を検討し、マイクロソフトのライセンスなしを図ることとした。	マイクロソフト以外の使用中のソフトで「ライセンスなし」を調査する必要がある。	教育用システム及び学内LANの管理運用は、ほぼ安定的に運用された。種々の障害に対しては、迅速な対応を行った。 教育用システムの更新について、仕様の策定、技術審査を分担して行った。 教育用システムの導入にあたっては、納入業者と定期的に連絡会を開催し、新システムに移行した。 「マイクロソフト包括ライセンス」について、個人メディアの販売方法を検討し、担当者が窓口となり販売を行った。 マイクロソフト以外の使用中のソフトで「ライセンスなし」を調査するため、監視システムの導入を検討している。	活動は良好である。 また、個人メディアの販売・配布方法について、業務改善可能か検討することが望ましい。(C)	C	・個人メディアの販売・配布方法について、業務改善が可能か検討する。	
32	情報処理センター部門委員会	総務課 情報管理係	3	(1)教育用システム更新のための仕様策定の方向を決定した。 (2)フロントスイッチを更改し、ネットワーク環境の整備を図った。 (3)教育環境の整備 ・演習室の空調設備を設置した。さらなる整備には、図書館センター全体の空調設備の見直しが必要 (4)ソフトウェア管理体制の整備 ・ソフトウェア管理に関する研修会を実施し、教職員の啓蒙を図った。	良好である。	IT戦略企画部門との仕事の切り分けをもう少し明確にしたほうがよい。	適切に審議され、実施された。	活動は良好である。	前年度の改善事項に対して、今年度の改善点を例示するなど、その結果を明記する事が望ましい。	C	・前年度の改善指示事項に対して、平成22年度の改善点の例を明記する。

番号	会議・委員会・部門委員会名	担当課・係	開催回数	前年度の自己点検 及び改善すべき事項		前年度の評価概要 及び改善事項	今年度の活動内容	自己点検及び改善すべき事項	評価概要	評価	改善事項
				自己点検	改善すべき事項						
33	図書館部門委員会	総務課 情報管理係	4	(1)利用者講習会・文献検索講習会=文献検索講習会の対象学年を検討し、本科生を対象とした。 (2)読書感想文等=募集要項を掲示し、周知を図った。 (3)企画展=新規企画を実施、好評につき期間を延長した。 (4)ブックハンティング=学生には好評であった。実施学年・時期を検討し、次年度からは第2学年及び第4学年・春の実施とした。 (5)図書館だより=内容を検討し、編集・発行した。 (6)紀要=編集・発行した。 (7)図書館システム=順調に稼働中である。 (8)系統的図書の購入=教員の協力により、若干は充実したが、予算措置が必要。 (9)地元公共図書館との連携=県図書館の動向を踏まえ、大学図書館協議会のなかで検討。 (10)リユースブック=教員の協力が得られ、学生に好評。その他：入館者数は、当初増加傾向にあったが、夏以降減少した。(インフルエンザの影響?) 貸出冊数は、昨年度に比べ4割増加した。	(1)継続して実施することが必要 (2)継続してPRが必要 (3)おおむね良好 (4)継続して実施することが必要。第2、4学年で今後は実施すること。 (5)良好 (6)良好 (7)良好 (8)予算措置が必要 (9)検討が必要 (10)おおむね良好	(8)系統的図書の購入=教員の協力により、若干は充実したが、予算措置が必要 (9)地元公共図書館との連携=県図書館の動向を踏まえ、大学図書館協議会のなかで検討	(1)利用者講習会説明後、1人1冊以上の図書を借りることを指導、結果貸し出しが1.5倍に増えた。 (2)文献検索講習会を本科5学年 各研究室代表者1名に実施 (3)今後ともコンクールを実施する。図書館キャラクターを募集し定めた (4)企画展後に数字関連など貸し出しに効果があった (5)ブックハンティングを春に実施した。 (6)図書館だよりを編集した (7)紀要を編集・発行した (8)教育充実設備費で、情報検索支援室をラーニング commonsとして充実するための什器等を整備した。 (9)学生用図書、資格取得関係図書を購入した (10)リユースを継続実施	活動は良好である。	活動は良好であるが、前年度の改善指示にある、予算措置について、改善点があれば記述することが望ましい。	C	予算措置に関する改善点があれば記述する。
34	e-Learning 実践研究推進室	総務課 情報管理係	4	・学習内容の確認方法、レポートの確認方法に改善が必要である。例えば実験アラカルトの波形解析ではほとんどがコピーの提出であったため、学修成果が確認できない。 ・学習ログを定期的に確認し、個別に学修成果を確認しないと、不足単位を充足するための便利な科目になりにくい。 ・コンテンツについても改善が必要であるが、予算を掛けることは現時点では必要ない。内容と運用方法の見直しは必用である。 ・G-Brainsとの複み分けと連携が必用である。	本校のeラーニングシステムは、他の教育機関におけるそれと比較してもレベルが高い。しかし運用およびコンテンツ内容の見直しは必要である。	コンテンツ作成教員の要求事項等を調査し、原稿のeラーニングシステム(サーバ環境含む)の見直しと検討が望まれる。但し実施にあたっては、ある程度の予算準備も必要であるため、外部資金等の導入も並行し検討されると良い。	次の活動内容をメディア委員会で報告した。 1. e-Learning 科目関連 ・数学アラカルト、実験アラカルト(学内、学外(大学、他高専、社会人)の受講は、例年と同程度であった。新規e-Learning科目(デジタルシステム基礎、デジタルシステム応用)を配信開始した。 ・岐阜高専専攻科生(数学アラカルト 15 22人、1K 11人、実験アラカルト 15 22人、1K 15人、実験アラカルト 25 4人、2K 1人) ・ネットワーク大学コンソーシアム (数学アラカルト 9人、実験アラカルト 11人、デジタルシステム基礎2人、デジタルシステム応用は学内受講希望者が多く、機器貸出の関係で、今年度は、ネットワーク大学コンソーシアムの受講を制限、社会人受講者 数学アラカルト2人、実験アラカルト4人 ・eHELP (数学アラカルト6人、実験アラカルト3人) ・単位互換協定締結高専数増加(全国高専数の3分の1程度に) ・数学アラカルトのコンテンツの一部改良 ・実験アラカルトコンテンツの内容の一部修正(問題文での数字の間違いなど) ・数学アラカルトの対面講義を岐阜駅のサテライト教室からテレビ会議システムで岐阜高専に配信(社会人受講生が受講) 2. e-HELP 関連について ・岐阜高専から、実験アラカルト・数学アラカルトを配信 ・岐阜高専、仙台高専と長岡技術科学大学との共同研究(教育の質の保証)として長岡技術科学大学長経費に採択された。 ・eラーニング受講生に対する学習スタイルアンケート継続実施(次年度は、数学アラカルト、実験アラカルトの受講生に対してアンケート調査予定) ・最先端ICT活用PBL型教育による高専・大学統合教育の向上に関する研究継続(長岡技術科学大学、岐阜高専、鈴鹿高専、沖縄高専、福井高専) ・教育コンテンツの分析のためe-Learning 受講生の脳波、心電図、唾液分泌などの生体反応のデータ計測と分析研究の実施継続(岐阜高専、仙台高専、長岡技術科学大学、豊橋科学技術大学) ・ICT活用教育における教育の質の向上に関する調査研究継続(岐阜高専、鈴鹿高専、長岡科学技術大学、東京工業大学) ・平成22年度 eHELP全体会議(平成22年7月30日(金)) 平成23年1月7日(金)) 3. ネットワーク大学コンソーシアム岐阜 ・岐阜高専から、実験アラカルト・数学アラカルト・デジタルシステム基礎を配信 ・外部大学、社会人からの受講生あり ・平成22年度に新たな取組として、公開講座の配信が始まる。(岐阜高専から数学の公開講座を6講座配信) ・10月19日 第1回 公開講座実施(岐阜駅前サテライト教室からテレビ会議配信) ・10月26日 第2回 公開講座実施(岐阜駅前サテライト教室からテレビ会議配信) ・11月9日 第3回 公開講座実施(岐阜駅前サテライト教室からテレビ会議配信) ・11月16日 第4回 公開講座実施(岐阜駅前サテライト教室からテレビ会議配信) ・11月30日 第5回 公開講座実施(岐阜駅前サテライト教室からテレビ会議配信) ・12月7日 第6回 公開講座実施(岐阜駅前サテライト教室からテレビ会議配信)	1. 良好である。 2. 良好である。 3. 良好である。	本推進室最下行参照 本推進室最下行参照 本推進室最下行参照	本推進室最下行参照 本推進室最下行参照 本推進室最下行参照	

番号	会議・委員会・部門委員会名	担当課・係	開催回数	前年度の自己点検及び改善すべき事項		前年度の評価概要及び改善事項	今年度の活動内容	自己点検及び改善すべき事項	評価概要	評価	改善事項
				自己点検	改善すべき事項						
	e-Learning 実践研究推進室	総務課 情報管理係	4	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の確認方法、レポートの確認方法に改善が必要である。例えば実験アラカルトの波形解析ではほとんどがコピーの提出であったため、学修成果が確認できない。 学習ログを定期的に確認し、個別に学修成果を確認しないと、不足単位を充足するための便利な科目になりかねない。 コンテンツについても改善が必要であるが、予算を掛けることは現時点では必要ない。内容と運用方法の見直しは必用である。 G-Brainsとの棲み分けと連携が必用である。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校のeラーニングシステムは、他の教育機関におけるそれと比較してもレベルが高い。しかし運用およびコンテンツ内容の見直しは必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツ作成教員の要求事項等を調査し、原稿のeラーニングシステム(サーバ環境含む)の見直しと検討が望まれる。但し実施にあたっては、ある程度の予算準備も必要であるため、外部資金等の導入も並行し検討されると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 4. 高専IT教育コンソーシアム関連について <ul style="list-style-type: none"> 高専IT教育コンソーシアムが解散となり、代わりに、独立行政法人国立高等専門学校機構「ICT活用教育専門部会」が設置された。 ICT活用教育推進担当者の選任がなされ、活動が開始となる。 岐阜高専は、現代GP、eHELP、ネットワーク大学コンソーシアム岐阜の実績から、ICT活用教育専門部会会議に参加する中核メンバーに選ばれた。(2月16日の会議で、今後の高専のICT活用教育の方針を決めるため、全国高専に対して実態調査を行うことが話し合わせ会議で決定された。現在、岐阜高専を含む中核メンバーで実態調査に向けて準備が進んでいる。) 5. 前年度に指摘された点の改善について <ul style="list-style-type: none"> 学習内容の確認方法、レポートの確認方法について改善を行った。また、レポートの提出において、他人のコピーを提出しないように、紙面の資料で配布、電子メールでの通知を徹底した。本校学生に関しては、e-Learningの受講説明会を開催して、その中でもレポートの提出に関して重ねて説明した。 学習ログを定期的に確認し、個別に学修状況を確認して指導を行った。 コンテンツの改善について、実験アラカルト、数学アラカルトの改良を行った。 G-Brainsとの連携と棲み分けを実施するために、G-Brainsと繋がるシステム拡張を検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> 4. 良好である。(岐阜高専は、これまでの実績から、全国高専のICT活用教育の中核決定会議の一員に選ばれた。中核メンバーの中でも、指導的立場を期待されている。今後、高専全体の向上に関して重要な任務を遂行しなければならない。) 5. 今後の課題について <ol style="list-style-type: none"> e-Learning 科目の拡充と充実(修正、新規内容)、成績集計機能などの検討 ICT活用教育の教員への普及と周知の継続 高専機構「ICT活用教育専門部会」、eHELPの活動、ネットワーク大学コンソーシアム岐阜といった対外的な活動の推進と共に、学内の学生向けのe-Learning やG-BRAINの取組の推進を実践する。「対外」、「学内」の両輪をしっかりと見据えながら、さらなる充実をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本推進室最下行参照 学習ログとレポートの確認について、実効があるような改善を実施し、成績処理との連動をはかるべきである。 システムの維持・運用経費を含めて、コンテンツの改善等についても、外部資金獲得等、コストパフォーマンスにも配慮する必要がある。 	W	<ul style="list-style-type: none"> 本推進室最下行参照 学習ログとレポートの確認について、実効があるような改善を実施し、成績処理との連動をはかるべきである。 システムの維持・運用経費を含めて、コンテンツの改善等についても、外部資金獲得等、コストパフォーマンスにも配慮する必要がある。
35	学生支援委員会	学生課 学生係			<ul style="list-style-type: none"> 学生の支援体制を具体的にするために、H22.2.1に「学生支援体制に関する規程」が制定された。 						
36	学生相談室会議 (旧 学生相談部門委員会)	学生課 学生係	3		<ul style="list-style-type: none"> 活動状況は良好である。 		<ul style="list-style-type: none"> 教職員の学生対応に関する研修会の企画。発達障がい学生に対する特別支援教育の体制作りと学生相談室の機能強化に向けて検討を重ねた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教務・学生・寮務の各部門および学級担任との連携強化、県教育委員会の特別支援教育窓口等外部機関との連携のあり方について具体的に検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達障がい学生に関する教職員対象の講演会が実施されるなど、進展はあるものの、学生相談室としての本来のあり方(学生が相談に訪れる)には問題がなければ、会議で改善策を話し合う必要がある。 	W	<ul style="list-style-type: none"> 学生相談室員への学生の訪問件数などを整理し、会議により、学生が学生相談室を利用しやすい環境を作るための方策を提案すべきである。
37	インターンシップ・就職指導部門委員会	学生課 教務係 学生係		<ul style="list-style-type: none"> 専攻科のインターンシップは本来3週間の長期を想定したものであったが、経済状況などの変化により、2カ所または3カ所の、複数の事業所等での実施が増えた。できるだけ1カ所で3週間の特別実習を指導すべきである。 就職活動との連携は概ね良好である。 	<ul style="list-style-type: none"> マナー講習会・企業説明会等も実施され、本科に関しては改善が進んだ。 専攻科に関しても完全実施しているが、三週間の一貫した実習を基本とすべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> 以下が推進されると更に良い 岐阜県等各インターンシップ推進協議会、本校地域連携協力会事業との一体化による業務の改善・一元化。(本科) 女子およびTYK以外の、海外インターンシップ受け入れ先の検討。(専攻科) 					
38	進学指導部門委員会	学生課 教務係 学生係		<ul style="list-style-type: none"> 専攻科としては概ね良好である。 教務による進学ガイダンスを実施すると共に、個別学生の要望に応じて活動した。 専攻科からの大学院進学学生の増加に備えて、本科と同様に、学生課の大学院進学資料の充実が望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動状況は良好である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生支援体制に関する規程の制定に伴い、進学指導部門委員会が廃止されたため改善事項は記載しない。 					
39	教員会議	総務課 総務係	13	<ul style="list-style-type: none"> 適切に付議され、実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動状況は良好である。 		<ul style="list-style-type: none"> 主官会議、運営会議等における事項等の周知、報告等を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切に付議され、実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動状況は良好である。 	A	
40	学級担任会議	学生課 教務係	5	<ul style="list-style-type: none"> 継続して主事と担任の連絡を緊密に計る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動状況は良好である。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続して主事と担任の連絡を緊密に図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 主に教務報告、学生報告、及び寮務報告がなされた。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動状況は良好である。学級担任会議規程が制定された。(平成23年1月5日からの施行) 	<ul style="list-style-type: none"> 活動状況は良好である。 	A	
41	クラブ顧問連絡会議	学生課 学生係	3	<ul style="list-style-type: none"> クラブ指導の評価を教員へ周知する方法を構築する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> クラブ指導の評価を教員へ周知することが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> クラブにも運動系、技術系、文科系があり、活動状況も異なり、休日の指導回数等でクラブ指導の評価は行われているものの、この評価が客観的であるかあるいはそれをいかに教員へ周知するかは難しい問題である。クラブ指導に対する評価方法および教員への周知方法は継続的に検討を要する懸案事項である。 	<ul style="list-style-type: none"> クラブ指導の評価を教員へ周知する事は難しいものの、本年度から勤務が変形労働制になり、休日出動にして、勤務時間内にクラブ指導を行う事が可能になった。 	<ul style="list-style-type: none"> 変形労働制の労働パターンに制約があるため、変更を前提に、労働パターンの増加が望まれる。また、カレンダー変更が2か月前の23日であり、予定外の休日のクラブ指導に関しては休日(勤務)振替の必要がある。変形労働制の導入後も、休日のクラブ指導は行われており、教員に有効に変形労働制を利用するような働きかけが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 変形労働制の導入によりクラブ指導に関わる労働環境は改善されたが、さらなる改善が望まれる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 教職員等の業務負担軽減方策(高専機構)と併せて検討することが望ましい。
42	若鮎奨学基金運用委員会	総務課 総務係	1	<ul style="list-style-type: none"> 適切に審議され、実施された。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動状況は良好である。 		<ul style="list-style-type: none"> 表彰者、奨学金助成者の選考を実施 選考基準について見直しを行い、選考基準の不公平感の払拭を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切に審議され、実施された。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動状況は良好である。 	A	
43	岐阜高専50周年史編集委員会	総務課 情報管理係	0				<ul style="list-style-type: none"> 各種データの収集 	<ul style="list-style-type: none"> 岐阜高専50周年記念事業実行委員会(開催回数0)が基本方針を策定する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 要員の配置等の枠組みは整えられ、実質的なデータ収集活動は進んでいるが、組織の運営状況が未成熟である懸念がある。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度から編集委員会が組織されているので活動が期待される。